「令和元年度 浜松市と大学との連携事業」　実績報告

１　実績

大学名	講座数（回数）	学生講師人数	延べ参加者数
浜松学院大学	１４講座（１６回）	７８人	２８０人
静岡文化芸術大学	３講座（８回）	１３人	１４６人
常葉大学	１９講座（２２回）	６２人	４６０人
静岡大学	４講座（　４回）	１２人	６９人
聖隷ｸﾘｽﾄﾌｧｰ大学	２２講座（２２回）	１３３人	５１３人
計	**６２講座（７２回）**	**２９８人**	**１，４６８人**

※台風、コロナウイルスの影響で、３講座中止

２　成果と課題

＜成果＞

○開設講座数が昨年度よりも増え、市内７区の広い地域に大学生による講座を受ける機会を提供することができた。

○新たな学部やゼミ等の参加により、講座内容の幅や受講者層が広がった。

○大学生は、受講者や施設職員とのかかわりの中で、社会体験や異世代との交流など、将来やキャリアにつながる学びや経験を獲得することができた。

○受講者が、講座での学びを日常生活につなげようとするなど、それぞれの講座において、高い意欲や充実感をもって参加することができた。また、次年度も講座開催を望む声が多数あがった。

○講座前の打合せや講座後の反省会の実施など、講座をよりよいものにするための開催施設と大学との連携・協働活動が多く見られた。

○地元の幼稚園や小中学校と連携した講座、文化施設（図書館や美術館等）と連携した講座など、連携の広がりが見られた。

＜課題＞

○事業の特長や検証を生かした講座の企画や運営、広報の工夫・改善

○市（開催施設）と大学との連携・協働活動の促進

○より多くの市民の参加を促すための広報活動の推進と研究

３　これまでの実績

年度	参加大学		講座数	学生講師数	参加者数 （延べ人数）
23 年度	1	浜松学院大学	4	４７	３２８
24 年度	1	浜松学院大学	7	５０	４７８
25 年度	1	浜松学院大学	7	６１	５５８
26 年度	2	浜松学院大学 静岡文化芸術大学	8	６９	７７３
27 年度	2	浜松学院大学 静岡文化芸術大学	１０	９７	１，０５７
28 年度	4	浜松学院大学 静岡文化芸術大学 常葉大学 静岡大学	１７	１４０	６６３
29 年度	5	浜松学院大学 静岡文化芸術大学 常葉大学 静岡大学 聖隷ｸﾘｽﾄﾌｧｰ大学	３２	２２８	８１５
30 年度	**5**	**浜松学院大学 静岡文化芸術大学 常葉大学 静岡大学 聖隷ｸﾘｽﾄﾌｧｰ大学**	**５２**	**２９０**	**１，３９９**
元年度	**5**	**浜松学院大学 静岡文化芸術大学 常葉大学 静岡大学 聖隷ｸﾘｽﾄﾌｧｰ大学**	**６２**	**２９８**	**１，４６８**

令和元年度 市と大学との連携事業～大学生による講座 成果報告会　報告

１　日　時　2 月 27 日（金）午後 1 時 30 分～4 時 30 分

２　場　所　浜松市地域情報センター 1 階ホール

３　参加者　114 人
・市　　民： 8 人
・大学関係者：63 人（学生 48 人、教職員 15 人）
・行 政 職 員：43 人（開催施設職員 28 人、その他職員 17 人）

４　内　容
（１）　主催者挨拶（浜松市創造都市・文化振興課生涯学習担当課長）
（２）　今年度事業の概要（浜松市創造都市・文化振興課指導主事）
（３）　成果報告
【浜松学院大学】
①「今日から君もお金博士！」「ふねをつくろう！」
「レッツ・ゴー・ショッピング！目指せ東京オリンピック・パラリンピック！」
②「赤ちゃんとパパ・ママのふれあい遊び方講座」
③「ミニミニたんけん隊　リアルワールドの世界を楽しもう」
【聖隷ｸﾘｽﾄﾌｧｰ大学】
①「認知症予防“海馬を鍛えよう！！”」
②「アロマのハンドマッサージ」
③「自分の走力を高めよう」「健康寿命を延ばすには」
【静岡文化芸術大学】
①「お芝居プロジェクト！」
【静岡大学】
①「おもしろ理科工作教室　くるくるカラーチェンジライト」
【常葉大学】
①「自分でできるカラダケア」
②「子供も予防！ロコモティブ・シンドローム」
「足・腰鍛えて、健康寿命を延ばそう」
③「健康長寿のための知的食生活のススメ」
（４）　講　評（浜松学院大学　島埜内　恵　講師）

５　当日の様子
・各大学の代表全 11 講座の学生講師による発表があった。講座の準備段階から本番、成果や課題まで、スライドを用いて、どの発表も分かりやすくまとめられていた。また、講座開催に向けての開催施設と大学との連絡・調整の様子も適宜紹介され、市職員にとっても今後の事業の参考になった。
・学生講師からは、講座の企画運営を通して学んだことを確認することができ、事業の意義や価値を改めて確認することができた。

令和元年度浜松市と大学の連携事業　新聞記事

（全２１本）

【静岡新聞　令和元年８月９日（金）】

浜松学院大学「お金博士になろう！」(8/8)」＜佐鳴台協働センター＞

中区で学生が講座　お金のデザインや歴史、児童に紹介

お金のデザインや歴史、児童に紹介

中区で学生が講座

浜松市と浜松学院大は8日、中区の佐鳴台協働センターで子ども向け講座「お金博士になろう！」を開いた。

同大子どもコミュニケーション学科の学生4人が講師を務め、市内の小学生16人が参加した。学生は、スライドや実際のお金を見せながら、お金が使われるようになった歴史や紙幣のデザインなどについて説明した。店舗によって商品の販売価格が異なることや品質を確かめて購入する必要性、値引きについてなど賢くお金を使うことも紹介した。

子どもたちは模擬の紙幣や硬貨を払って商品を購入していくすごろくでも遊んだ。

同大4年の木下優さん(21)は「説明することに一つ一つ『あ！わかった！』と反応が返ってくる。やってよかったなと思う」と感想を話した。

千円札のデザインについて説明する浜松学院大の学生（左）＝浜松市中区

【静岡新聞　令和元年８月22日（木）】

静岡大学「くるくるカラーチェンジライト」(8/21)」

＜浦川ふれあいセンター＞　静大生、光の性質解説　佐久間で講座

静大生、光の性質解説

佐久間で講座

子ども向けの理科教室を提供する静岡大の公認サークル「キッズサイエンスカフェ」による科学工作講座が21日、浜松市天竜区佐久間町の浦川ふれあいセンターで開かれた。学生8人が、偏光板を使ったおもちゃ作りを通じて児童約15人に理科の楽しさを伝えた。

作ったのは「くるくるカラーチェンジライト」。動物などの模様を切り抜いたり、偏光板やセロハンテープを貼ったりした2つのプラスチックコップを重ね、ライトの上で回すことで、模様が万華鏡のように多色に光って見える仕組み。参加児童たちは次々と色が変わる模様を興味深そうに見つめ、光の性質に理解を深めた。

サークルの天野ちなみ代表(22)は「小学生が光の波などを理解するのは難しいが、不思議な現象だと理科に興味を持つきっかけになれば」と話した。

学生に教わりながらおもちゃを作る子どもたち＝浜松市天竜区の浦川ふれあいセンター

【資料１－３】

【中日新聞　令和元年８月24日（土）】

静岡大学「くるくるカラーチェンジライト」(8/23)」

＜曳馬協働センター＞

偏光板貼り屈折学ぶ　浜松市民講座

偏光板貼り屈折学ぶ

浜松市民講座

大学生から理科工作を学ぶ児童たち＝浜松市中区の曳馬協働センターで

大学生が教える市民講座が23日、浜松市中区の曳馬協働センターで開かれた。児童16人が参加し、子どもに理科工作を教える静岡大の学生サークル「Kids Science Cafe（キッズサイエンスカフェ）」のメンバーらが講師を務めた。

児童らは、偏光板とセロハンテープを貼り付けたプラスチック製のコップを内側から発光ダイオード（LED＝エルイーディー）で照らした。コップを動かすと光の屈折によってキラキラと色が変化することを学んだ。

サークル代表で工学部3年の天野ちなみさん(22)は「『どうして光の屈折によって見え方が変わるのだろう？』という気持ちから少しでも理科に興味を持ってもらえたらうれしい」と話した。

浜松市と大学による連携事業の一環。地域の児童や高齢者に向けて、静岡、浜松学院、常葉、聖隷クリストファー、静岡文化芸術の5大学の学生が専門分野を生かして講師を担当する。2011年度に開始し、徐々に大学や講座数が増えている。本年度は63講座を企画し、この日は4講座目。

（鎌倉優太）

【静岡新聞　令和元年８月30日（金）】

常葉大学「速く走るために！（バスケットボールと走りの講座）」(8/29)」

＜水窪協働センター＞

速く走るこつ児童に伝授　体重移動の指導を工夫

速く走るこつ児童に伝授

水窪で常葉大生

体重移動の指導を工夫

常葉大女子バスケットボール部による走り方講座が29日、浜松市天竜区水窪町の市立水窪小の体育館で開かれた。学生3人が、児童14人に速く走るためのこつを伝授した。

重心を前方に置き、腕をしっかり振って走ることを重点的に教えた。つま先接地やかかと接地を意識して歩いたり、手押し相撲対決をしたりして、児童が体重移動の感覚をつかむことができるよう指導を工夫した。鬼ごっこやバスケットボールの模擬試合なども行い、瞬発力を鍛えた。

同大健康プロデュース学部でスポーツを通じた心身マネジメントを学んでいるという大石倫さん(21)は「子どもたちに運動を教える機会は少なく貴重。言葉で動きや意図を伝えることの難しさを知った」と話した。

講座は、市の大学との連携事業の一環。（水窪支局・塩谷将広）

児童に走り方のこつを伝授する学生ら＝浜松市天竜区の市立水窪小

【静岡新聞　令和元年 9 月 16 日（月）】

浜松学院大学「ウキウキおんがく学校」(9/15)」

＜浜名協働センター＞

浜松学院大生、幼児とダンス

浜北区　浜松学院大生、幼児とダンス

浜松学院大の学生の指導で音楽に合わせて体を動かす幼児教育イベント「ウキウキおんがく楽校」が15日、浜松市浜北区の浜名協働センターで開かれた＝写真＝。未就学児約20人が笑顔で取り組んだ。

現代コミュニケーション学部の高久新吾教授のゼミに所属する学生８人が指導役を務めた。子どもたちは学生のピアノ演奏でリズムを取りながら輪になって行進したり手足を大きく動かしたりした。スピーカーから流れたポップスを聞きながらダンスにも挑戦した。

【中日新聞　令和元年 10 月 3 日（木）】

聖隷ｸﾘｽﾄﾌｧｰ大学

「認知症予防“海馬を鍛えよう!!”」(10/2)

＜竜川ふれあいセンター＞

認知症予防体操　天竜で取り組み

学生の指導で認知症予防の運動をする参加者＝浜松市天竜区横山町で

認知症予防体操　天竜で取り組み

浜松市と聖隷クリストファー大（同市北区）は、お年寄りに認知症予防を学んでもらう講座を天竜区横山町の竜川ふれあいセンターで開き、地域の六十～八十代の十九人が参加した。

同大リハビリテーション学部の学生六人と泉良太准教授が講師を務め、最初に六十五歳以上のおよそ8・5％に認知症が現れることなどを説明した。

学生が「体操で運動のきっかけをつくると認知症予防に効果的」と呼び掛け、姿勢を正して腕を大きく回す動きを一緒に反復した。頭の体操のゲームもあり、和気あいあいとした雰囲気で交流した。（島将之）

【静岡新聞　令和元年 10 月 5 日（土）】

浜松学院大学「ウキウキおんがく楽校」（10/3）

＜伊佐見協働センター＞

音楽で遊び楽しむ　浜松学院大生企画　伊佐見幼稚園児に講座

音楽で遊び楽しむ

浜松学院大生企画

伊佐見幼稚園児に講座

浜松市と浜松学院大（中区）は3日、同大の学生による講座「ウキウキおんがく楽校」を西区の市立伊佐見幼稚園で開いた。同大現代コミュニケーション学部の高久新吾教授ゼミの4年生8人が、同園の3～5歳の園児26人と音楽を使った遊びを楽しんだ。園児は学生が弾くピアノの速度や音の変化に合わせて、歩く早さや体の向きを変えるゲームを体験した。椅子取りゲームやダンスも行った。

講座の内容は学生が企画した。ゼミ長の鈴木栞さん(22)は「園児は最初緊張していたが、だんだん柔らかい表情になってきた」と話した。

音楽を使った遊びを楽しむ園児ら
＝浜松市西区（写真の一部を加工しています）

【静岡新聞　令和元年 10 月 5 日（土）】

浜松学院大学「ウキウキおんがく楽校」(10/3)

＜浜名協働センター＞　　音楽を使った幼児教育イベントを取りまとめた鈴木詩織さん

9月中旬に浜松市浜北区の浜名協働センターで開かれた「ウキウキおんがく楽校」で、浜松学院大の仲間を率いて未就学児約20人を相手にピアノ演奏やスピーカーからの音楽に合わせた行進や踊りを指導した。同大現代コミュニケーション学部4年。同学部の高久新吾教授のゼミに所属する学生たちのリーダー役も担う。就職先は県内の保育施設に内定している。22歳。

―イベントの感想は。

「笑顔で取り組む子どもたちに元気をもらえた。音楽教育への保護者からの技術的な要求も考慮しなければならないが、今回は音楽に親しませることを優先した」

―音楽の子どもへの影響についてどう考えるか。

「音楽は幼い子が感情を表現するのに適したツールだと思う。イベント中、演奏の速さや音の高低に合わせて子どもがどんな動き方をしたのかについても検証するつもりだ」

―幼児教育の道を志したきっかけは。

「保育士の母が、街で買い物をしていても子どもや保護者から声を掛けられて慕われる姿を見て育ち、あこがれた」

―今後の抱負は。

「深刻な児童虐待事件をなくしたい。そのために、子どもだけでなく親の兆候も見逃さないような幼児教育者になりたい」

◇

幼いころから活発だったという。

（浜北支局・松浦直希）

音楽を使った幼児教育イベントを取りまとめた

鈴木　栞（すずき しおり）さん　（牧之原市）

この人

【静岡新聞　令和元年 10 月 25 日（金）】

聖隷クリストファー大学「認知症予防“海馬を鍛えよう！！”」(10/23)

＜水窪文化会館＞　認知症の予防　大学生が講義　水窪で講座

認知症の予防　大学生が講義

水窪で講座

聖隷クリストファー大リハビリテーション学部の学生による認知症講座「認知症予防”海馬”を鍛えよう！」が23日、浜松市天竜区水窪町の水窪文化会館で開かれた。

学生と一緒に認知症予防のゲームを楽しむ参加者ら＝浜松市天竜区の水窪文化会館

地域の高齢者ら約20人が参加し、学生から記憶をつくる脳の海馬の働きや短期記憶と長期記憶、作業記憶の違いなど記憶の仕組みについて説明を受けた。認知症対策として、適度に運動する、緑黄色野菜やクルミ、レバーなどを食べる、日々好奇心を持って多くの人と接することなどが有効であると学んだ。

一人一人が好きな平仮名を紙に書き、他の人の平仮名と合わせて単語をつくるゲームや、日々の生活の中に取り入れることのできる認知症予防の体操なども実践。楽しみながら脳に刺激を与える方法に理解を深めた。

【中日新聞　令和元年 10 月 26 日（土）】

常葉大学「健康長寿のための賢い食生活」（10/25）

＜西部協働センター＞

「健康長寿のための食生活」常葉大生、お年寄りに伝授

「健康長寿のための食生活」

蒸す 煮る

常葉大生、お年寄りに伝授

中区

参加者と一緒にオムレツを作る池谷昌枝准教授（左から２人目）や学生たち＝浜松市中区の西部協働センターで

常葉大と浜松市による連携講座「健康長寿のための賢い食生活」が二十五日、中区の西部協働センターであった。同大健康栄養学科の池谷昌枝准教授（臨床栄養学）のゼミ生八人が高齢者約二十人に、栄養学の視点から健康な食事やその調理法を教えた。（鈴木凜平）

四年の松村佳樹さん（二）が講義し、「外見がきれいな人は、体の中からきれい」として、抗酸化作用のある栄養素を多く摂取することを提案した。食材の例としてビタミン豊富な野菜やアーモンド、クルミを紹介すると、参加者は熱心にメモを取っていた。

調理の実践では、糖とタンパク質を含む食材を高温で加熱した料理が老化につながるとして、「蒸す」「煮る」といった調理法を勧めた。炊飯器やポットを使い、いなりずしやオムレツ、お吸い物を作り、試食した。

松村さんは卒業後、管理栄養士として特別養護老人ホームに勤めるという。「話すのは緊張したが、たくさん質問を受けて、健康意識の高さを感じた」と語った。

【資料１－３】

【中日新聞　令和元年 10 月 31 日（木）】

聖隷クリストファー大学

「脳トレや体操に取り組んで心も身体も元気に！～健康寿命を延ばすには～」（10/30）

＜積志協働センター＞

脳トレ、体操　健康長寿に　学生が講座　高齢者後押し

脳トレ、体操　健康長寿に

学生が講座　高齢者後押し

東区

太ももを鍛えるトレーニングに取り組む参加者＝浜松市東区の積志協働センターで

聖隷クリストファー大リハビリテーション学部の学生による高齢者向け講座「脳トレや体操に取り組んで心も体も元気に！　健康寿命を伸ばすには」が三十日、浜松市東区の積志協働センターで開かれた。

理学療法学科で学ぶ一年生九人が講師を務め、地域の高齢者約三十人に転倒予防になる筋力トレーニングなどを紹介した。太ももを鍛えるには、椅子に座ったまま片足ずつ伸ばして浮かせる動作を左右十秒ずつ三セット、ふくらはぎでは椅子の背もたれに手を置いて立ち、かかとをゆっくりと上げ下げする運動を十回ずつ三セット行うと有効という。

リズムをとりながらステップを踏む「コグニサイズ」にも取り組んだ。直立した状態で横に足を出し、直後に元の位置に戻すステップを数字を数えながら左右交互に行うもので、三の倍数の時に拍手を入れることでより脳を刺激し、認知症予防につながる。

講座は、浜松市と市内に拠点を置く五大学による連携事業の一環で開催された。（酒井大二郎）

【静岡新聞　令和元年 11 月 6 日（水）】

常葉大学「健康長寿のための栄養と料理」（11/1）

＜舞阪協働センター＞　常葉大生講師に　健康長寿食講座

常葉大生講師に健康長寿食講座

西区

常葉大健康プロデュース学部健康栄養学科（浜松市北区）の学生3人が講師を務める市民講座「健康長寿のための栄養と料理」（市主催）がこのほど、西区の舞阪協働センターで開かれた。60代を中心に18人が参加し、健康につながる食材や食事の取り方を学んだ。

学生は高齢者がタンパク質摂取量や運動量が不足して筋肉が少なくなりやすいことや、老化を防ぐためにパプリカやアーモンド、豚肉などの食材を取る大切さについて説明した。参加者は「パプリカと枝豆のオムレツ」など、栄養豊富な料理作りも体験した。

講座は大学生が授業で得た知識を生かして市民講座を開催する「浜松市と大学との連携事業」の一環。

学生のアドバイスを受けながら料理を作る参加者＝浜松市西区の舞阪協働センター

【静岡新聞　令和元年 11 月 22 日（金）】

浜松学院大学「子育てママ・パパに贈る　乳幼児とのふれあい講座」（11/18）

＜東部協働センター＞　乳幼児と触れ合い　学生が指導

中区　乳幼児と触れ合い 学生が指導

子育て中の保護者が乳幼児との触れ合い方を学ぶ講座がこのほど、浜松市中区の東部協働センターで開かれた＝写真＝。講師は浜松学院大（同区）子どもコミュニケーション学科３年の学生６人。市内外の０～２歳児と保護者計約20人が参加した。

学生は、着用したエプロンから動物などの人形を取り出す「エプロンシアター」や、絵本の読み聞かせなどを行った。保護者は歌に合わせて子どもの体を触ったり、くすぐったりする遊びも体験した。

同大と市の連携事業で、学生が企画した。講師の１人、藤田洸太(20)さんは「親子の素のコミュニケーションを見て、自分たちも子どもとの関わり方を学ぶことができた」と話した。

【静岡新聞　令和元年 11 月 23（土）】

聖隷クリストファー大学

「脳トレや体操に取り組んで心も身体も元気に！～健康寿命を延ばすには～」（11/22）

＜浦川ふれあいセンター＞

認知症や転倒予防説明

佐久間　学生講師に高齢者講座

大学生と一緒に椅子に座りながら行える運動を実践する参加者ら＝浜松市天竜区の浦川ふれあいセンター

認知症や転倒予防 説明

佐久間 学生講師に高齢者講座

聖隷クリストファー大リハビリテーション学部の学生が健康寿命を延ばすための知識を伝える高齢者講座が22日、浜松市天竜区佐久間町の浦川ふれあいセンターで開かれた。

地域住民約20人が参加し、大学生から認知症予防や転倒予防について説明を受けた。講座の最初に行ったカードゲームの神経衰弱では、絵柄をそろえてカードを取った人が最近うれしかったこと、感動したことなどを話す特別ルール。頭を使いながら大学生たちとの会話を楽しんだ。

椅子に座りながら行える有酸素運動や筋肉を鍛えるトレーニングなども実践し、生活の中で適度に運動することの大切さも学んだ。（水窪支局・塩谷将広）

【静岡新聞　令和元年 11 月 24（日）】

浜松学院大学「ウキウキおんがく楽校」（11/23）

＜水窪文化会館＞

ピアノ分解　仕組み確認

水窪　大学生が小中生に講座

ピアノ分解 仕組み確認

水窪 大学生が小中生に講座

浜松学院大子どもコミュニケーション学科の3年生による子ども向け講座「ウキウキおんがく楽校」が23日、浜松市天竜区水窪町の水窪文化会館で開かれた。地域の小中学生ら14人が、ピアノの音が鳴る仕組みを学んだ。

同会館のグランドピアノの分解と組み立てを体験し、内部構造を確認した。鍵盤を弾いた力を、弦をたたくハンマーの力に変える「アクション」などの機構を取り出すと、子どもたちは興味津々で見入った。田中大智君(9)は「鍵盤を弾くとハンマーが動いた。ピアノの中は初めて見た」と目を輝かせた。

講座は市と大学の連携事業の一環。同科の大津晃士さん(21)は「学校ではできない経験だと思う。楽器に触れて学ぶのは音楽のまちらしく、子どもの反応もいい」と話した。

グランドピアノを分解して音が鳴る仕組みを学ぶ子どもたち
＝浜松市天竜区の水窪文化会館

【静岡新聞　令和元年 11 月 24（日）】

常葉大学「幼児とパパ、ママのための心を育てるリトミック」（11/23）

＜みをつくし文化センター＞　リトミック、親子で楽しむ

北区 リトミック、親子で楽しむ

常葉大健康プロデュース学部こども健康学科の学生３人らが講師を務める市民講座「幼児とパパ、ママのための心を育てるリトミック」が

23日、浜松市北区細江町のみをつくし文化センターで開かれた。地域の９家族が参加し、元気よく体を動かした＝写真＝。

参加者は学生の説明を聞きながらピアノなどの演奏に合わせてポーズを取ったり、手をつないで回ったりした。動きながらのリズムを体感し、親子で楽しんだ様子だった。

講座は大学生が授業で得た知識を生かして市民講座を開く「浜松市と大学との連携事業」の一環。

【静岡新聞　令和元年 12 月 15（日）】

常葉大学「自分でできるセルフケア」（12/14）

＜北浜東部中学校＞（北浜南部協働センター）

トレーニング法　常葉大生が伝授　　浜北区２中学で講座

トレーニング法 常葉大生が伝授

浜北区2中学で講座

浜松市と市内大学の連携講座「自分でできるセルフケア」が14日、浜北区の市立北浜東部中と北浜中で開かれた。運動部の生徒が常葉大健康プロデュース学部の学生から、トレーニングやけがの予防法の指導を受けた。

北浜東部中では女子ソフトテニス部の1～2年生約20人が受講。片足を上げて体幹を鍛える訓練を行った際は「きつい」「もうだめ」などと言いながらも笑顔で励んだ。肘や肩の疲労回復に役立つツボも教わった。

体幹トレーニングに取り組む生徒＝浜松市浜北区の北浜東部中

【資料１－３】

【中日新聞　令和２年１月 18（土）】

静岡文化芸術大学「お芝居プロジェクト！」（1/17）

＜金指小学校＞（引佐協働センター）

「自分の役を意識」大学生が演技指導

「自分の役を意識」大学生が演技指導

引佐の金指小

浜松市北区引佐町の金指小学校で十七日、市と市内の大学が連携して演劇を指導する講座「お芝居プロジェクト」があった。同校の五、六年生が二十五日の学習発表会「さかみちフェスティバル」で上演する演目について、静岡文化芸術大学の芝居集団「出張お芝居！ぷちまり」の学生四人から演技指導を受けた。

五年生約二十人は、環境問題をあらすじに取り入れた演目「神様からのおくりもの」を演じる。「ぷちまり」の下宝礼奈さん（文化政策学部三年）らから「せりふがないときも自分の役を意識して」「もっと動きを付けて」などと、稽古を進めながらアドバイスをもらった。岡野真也君は「動きやせりふを、見る人に分かりやすく伝える方法が分かった」とうなずいた。

市は市内の五大学と連携し、学生が講師を務める生涯学習講座を各地で開いている。今回は、全校児童が毎冬に劇を発表する金指小の求めに応じ、学生講師が派遣された。（武藤康弘）

学生講師（右から3人目）から演技指導を受ける5年生たち＝浜松市北区の金指小で

。他にも、ぼくの言うことを聞てくれてうれしかったです。おさんは、レストランの予やくをてくれ、おいしく食べられました。（伊目小5）

【中日新聞　令和２年２月２７（木）】

聖隷クリストファー大学「Care for Mommy!～家族の幸せは私の健康から～」（2/2

＜二俣協働センター＞　幼児育てる母親へ講座

天竜で聖隷大生　骨盤ケアや乳がん

幼児育てる母親へ講座

天竜で聖隷大生　骨盤ケアや乳がん

幼児を育てる母親向けに聖隷クリストファー大助産学専攻科の学生らが講師を務める健康講座が二十五日、浜松市天竜区の市二俣協働センターであった。出産を経験した女性の健康に関する知識を紹介し「幸せな家庭のためにも母親が心と体の健康を守ることが大事」と呼び掛けた。

産後ケアで骨盤底筋を鍛える運動では、参加者が床にあおむけになり、下腹部に力を入れて骨盤を締め、息を吐きながら腰を上げる動きを繰り返した。

自ら発見できる数少ないがんで、三十代後半から急増する乳がんにも注意を呼び掛けた。医療機関での検診に加え、鏡の前で手で触れて乳房に変化がないか毎日確認する習慣をつけてもらうよう勧めた。

市と市内の大学との連携事業。今春から助産師になる専攻科一年の鈴木七海さん(三)は「母親の話も聞くことを意識した。緊張したけれど温かく接してもらえた」と話した。（島将之）

骨盤ケアの体操を母親に教える学生＝浜松市天竜区二俣町で

【資料１－３】

【中日新聞　令和２年２月２８日（金）】

成果報告会（2/27）

＜地域情報センター＞

大学生、講師成果を報告　準備や反省、工夫も

大学生、講師成果を報告

浜松市との連携事業

大学生が授業などで学んだ専門知識を生かし、市民講座で講師を務める「浜松市と大学との連携事業」の２０１９年度成果報告会が27日、中区の市地域情報センターで行われた。

準備や反省、工夫も

浜松学院大、静岡文化芸術大、常葉大、静岡大、聖隷クリストファー大の学生が、音楽や健康づくり、語学など多彩な分野の講座に取り組んだ事例を発表した。事前の準備や当日の講座内容、参加者の反応などを取り上げたほか、「参加者の自己紹介の時間を設ける」「内容をさらに充実させる」といった反省点を生かした工夫も紹介した。

大学生が講座の成果を発表した報告会＝浜松市中区の市地域情報センター

【中日新聞　令和２年２月２９日（土）】

成果報告会（2/27）

大学生が講師経験　成果報告「子どもへの問い掛け学んだ」

活動の成果を報告する大学生たち＝浜松市中区の地域情報センターで

「子どもへの問い掛け学んだ」

大学生が講師経験 成果報告

浜松市内の五大学の学生が講師となり、地域の子どもや高齢者に認知症予防や理科工作を教える講座が、二〇一九年度六十四回開かれた。学生たちがその成果を二十七日、同市中区の地域情報センターで報告した。

（篠塚辰徳）

浜松学院大、静岡文化芸術大、常葉大、静岡大、聖隷クリストファー大が浜松市と連携した事業で、一一年から続く。地域と大学、市がつながりを深め、市民と学生が互いに学び合える特徴がある。

本年度は協働センターに加えて、小中学校や図書館、美術館に会場を広げて実施。幼児教育やスポーツ、工学、福祉などそれぞれ大学が持つ強みに合わせて、「家で簡単にできる赤ちゃんとパパ、ママの触れ合い方講座」「転倒予防のための脳トレや体操体験」などのテーマで開いた。

理科工作や認知症予防

浜松学院大の現代コミュニケーション学部の学生は昨年十月、船が動く仕組みを学べる小学生向けの実験教室を開催。風や熱の働きをプロペラや風船などで分かりやすく伝えながら、船をつくった。児童からは「また参加したい」との声が聞かれたといい、学生たちは「子どもたちに考えてもらえるような問い掛けの大切さを学んだ」とまとめた。

【資料2】

「令和元年度 はままつ地域づくり講座」　実施・実績報告

1　目的

・地域づくり活動や生涯学習活動への興味・関心を引き出し、市民の地域参画を促す。
・協働センター等生涯学習施設と連携し、生涯学習による地域づくり活動を進めることのできる力（生涯学習による地域づくり活動に必要なスキル、ノウハウ）を育て、地域リーダーの候補となる人材を育成する。

2　内容

○開催期間：令和元年 10 月 5 日（土）～令和 2 年 2 月 8 日(土)【全 9 回】
○会　　場：可美公園総合センター（中級編第 3 回は蒲協働センター）
○運営主体：静岡県生涯学習インストラクターの会西部地区会

（1）初級編（全 3 回）

回	月　日	内　容
1	10 月 5 日 （土）	○オリエンテーション「地域デビューをして人生を豊かにしよう！」 ・ 講師:藤沼 在久 氏 （静岡県生涯学習インストラクターの会西部地区会地区長）
2	10 月 19 日 （土）	○講話「今、自分にできること」 ・ 講師:原田 和正 氏(NPO 法人静岡団塊創生塾 理事長) ○実技体験「自分にできることを考えてみよう」
3	11 月 16 日 （土）	○講話「生き生き地域活動～地域課題の解決に向かって～」 ・ 講師:袴田 さとる 氏(静岡県人づくり推進員) ○実践発表「ようこそ先輩！～初めての講座開設への挑戦～」 ・ 発表:過年度はままつ地域づくり講座 修了者

（2）中級編（全 6 回）

回	月　日	内　容
1	12 月 1 日 （土）	○オリエンテーション「講座の企画ってどうやるの？」 ・ インストラクターの会会員、創造都市・文化振興課職員 ・ 平成 30 年度はままつ地域づくり講座 修了者 ○グループワーク「講座名を考えよう」
2	12 月 15 日 （土）	○講義「楽しい講座を企画するポイント」 ・ 青葉 陽亮 氏(浜松市曳馬協働センター所長) ○グループワーク「講座の計画を立てよう ①」
3	12 月 22 日 （土） 蒲協働センター	○講座参観「季節のお花を楽しむアレンジメント」「子どもクリスマス会」 ・ 季節のお花の会(平成29年度はままつ地域づくり講座 修了者) ・ マナビット蒲(蒲協働センター地域活動団体)
4	1 月 12 日 （土）	○講義「人が集まる！チラシ作りと広報の裏ワザ」 ・ 岡本 眞理 氏(静岡県人づくり推進員) ○グループワーク「講座の計画を立てよう ②」
5	2 月 2 日 （土）	○講義「参加者を笑顔にする講座運営のコツ」 ・ 瀧 尚也 氏(浜松市南部協働センター所長) ○グループワーク「講座の計画を立てよう ③」
6	2 月 8 日 （土）	○グループ演習「講座を開いてみよう～模擬講座にチャレンジ！～」 ○講座のまとめ
講座修了後		☆企画した講座の実践 （始めよう！市民力～学習成果活用事業への応募）

3　実績

内容	定員	受講者			修了者		
		R1	H30	H29	R1	H30	H29
初級編	30	30	29	35			
中級編	15	19	20	25			
計		49	49	60	18	18	25

☆ 修了率:95%(修了者/中級編の受講者)

※修了条件

・初級編・中級編両方の出席者…全9回中5回以上出席した者(中級編は3回以上出席)

・中級編のみの出席者…全6回中3回以上出席した者

4　受講者アンケートによる満足度

回	初級編			中級編						集計		
	①	②	③	①	②	③	④	⑤	⑥	R 1	H30	H29
大変参考になった	48%	76%	50%	53%	56%	100%	62%	60%	56%	62%	56%	50%
参考になった	48%	24%	45%	47%	44%	0%	38%	40%	38%	36%	43%	45%
難しかった	4%	0%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	6%	2%	6%	6%

5　成果と課題

＜成果＞

○各回の講師の実体験に基づく話は、受講者にとって地域課題やその解決策、講座開講のためのポイント等をつかむヒントになった。

○講座開設という具体的な目標を設定したため、グループワークや講話後の感想交流などでの活発な意見交換がなされた。

○過年度修了者や協働センター職員による講義や実践発表、現場における講座の参観等を取り入れた多様なプログラムにより、講座を企画・運営する際のポイントや留意点等についてより具体的に学んでいただくことができた。

○過年度修了者による１０講座が市内各地の協働センターで開催された。さらに、来年度も引き続き講座開催を計画する方もいるなど、継続的な活動へとつながっている。

＜課題＞

○既に講座運営やボランティア等の地域活動を実践されている方へのスキルアップやフォローアップの充実（地域のリーダーやコーディネーターの育成）

○各種生涯学習事業（学習成果事業、生涯学習講師登録制度、地域学校協働活動等）と有機的に連動させた地域人材の育成プログラムの開発

（参考）令和元年度修了者が計画している講座（令和２年度実施予定）

テーマ	予定回数	講座概要（講座タイトルは仮称）
健康	5	「10 才若がえってみませんか」 体幹機能を向上させる「気功ヨガ」と楽しく仲間づくりをする「音楽手話」を通して、地域住民の健康の保持増進を目指す。
健康	6	「浜松いきいき体操と嚥下体操教室」 座位や嚥下における体操を通して、筋力の低下を防ぐ。地域住民の健康保持に対する意識を高め、健康寿命の延伸を目指す。
コミュニケーション	3	「『ぐりとぐら』のカステラを作ろう！」 親子を対象に、絵本の中に出てくる料理を作る等の体験活動を通して、親子のコミュニケーションや地域の親同士の交流を促進する。
工作	2	「夏休みの楽しい工作体験」 地域の子供たちに、工作の作品作りを通して、発想力や企画力を育てる。時期を７～８月とし、夏休みの自由工作や自由研究の参考になるようにする。
工芸	2	「キャンドルを手作りしてみよう」 地域に住む成人を対象に、科学的にも証明されているリラックスと癒しの効果のあるキャンドルを手作りする。
手芸	2	「卓上手織り体験講座」 地域に住む成人を対象に、古い糸や布を使って手織りによるコースターやタペストリー、クッションなどを製作する。
生き方	2	「世界における“幸福感”とは ―南太平洋バヌアツ、南欧スペインを通して―」 海外生活経験者が、現地での体験を通して感じた、日本人と異なる「幸福の感じ方」＝「人生の楽しみ方」を紹介し、「本当の幸福とは何なのか」を共に考える契機とする。
健康	4	「生き生き笑顔に！簡単運動　健康になってリフレッシュ」 ボールエクササイズやアロマテラピーを中心に、健康な生活の過ごし方を提案する。ハーブティーやお菓子を用意してのお話し会等も取り入れ、参加者の交流も図る。

【資料３】

地域学校協働活動について

学校（コミュニティ・スクール等）と地域（地域団体・人材）との「連携・協働」による地域学校協働活動については、協働センターを核とした地域体制と学校との連携・協働により、実施していくものとする。

１　地域学校協働活動の目的

学校と地域がパートナーとして、「連携・協働」することで、学校と地域が共に子供を育て、地域の将来ビジョンを共有し、子供たちの望ましい成長を支える。

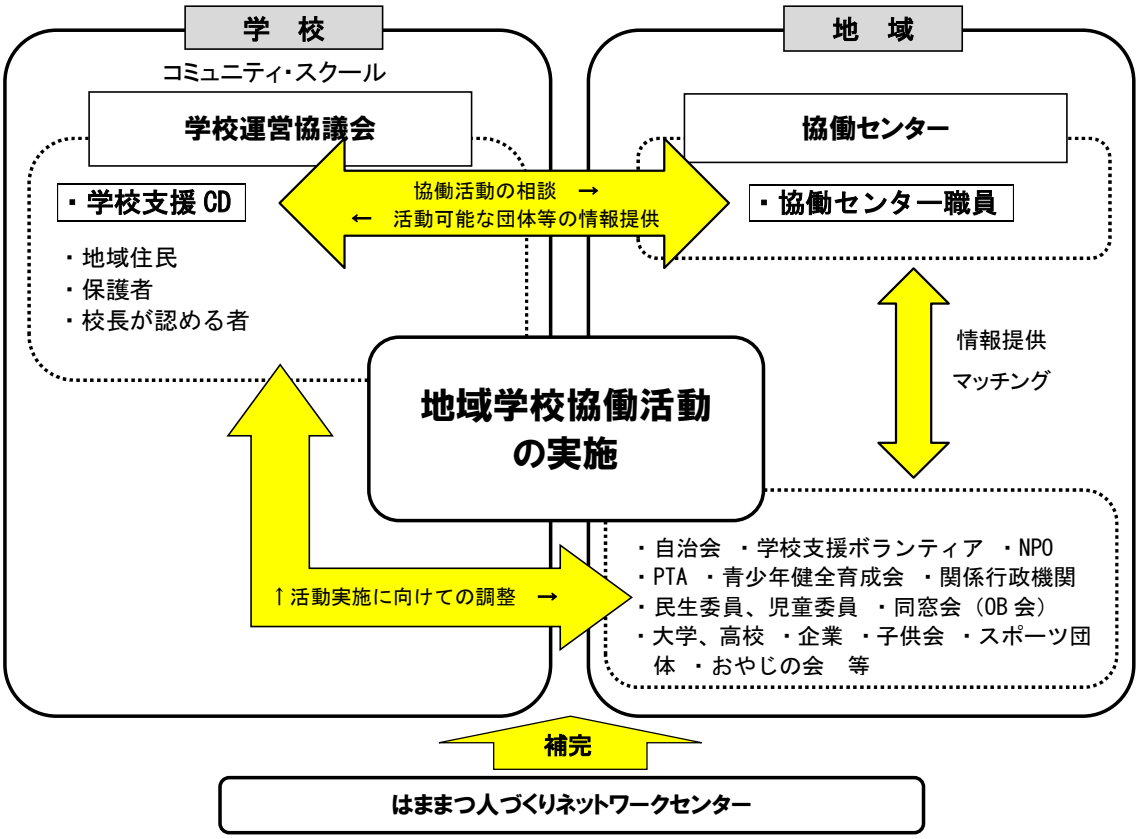
(1) 学校のメリット

活動における「地域の窓口」として協働センターが機能することで、学校と地域の連携・協働が円滑に行われる。

(2) 地域のメリット

子育て世代を中心として協働活動に参画する機会が創出され、学校がより身近なものとなり、世代間の関わりの促進、地域の活性化及び地域愛の醸成に繋がる。

２　地域学校協働活動の実施体制



- 学校支援コーディネーター（学校 CD）及び協働センター職員が、地域学校協働活動推進員（※）の役割を分担　※地域学校協働活動に関し地域住民と学校との情報共有や助言等を行う者
- コミュニティ・スクールを実施していない学校でも、教員からの協働活動の相談について、協働センター職員が窓口として対応
- 協働センターにおいて、学校からの相談に対応し、情報提供できる地域団体・人材のリスト化を図る

【資料4】

令和2年度社会教育関係団体交付補助金予算額一覧

■青少年団体等活動助成事業（次世代育成課）

（円）

内容	R02	H31	増減
地域で青少年健全育成活動を実施している団体に活動補助金を交付して、その事業を支援する。	**5,000,000**	5,000,000	0

【内訳】

自然体験活動等により青少年健全育成事業を行う団体	5,000,000	5,000,000	0